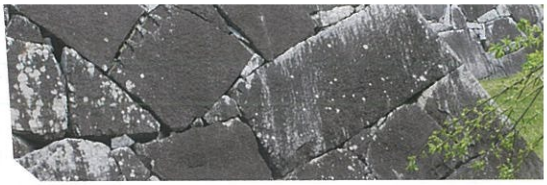
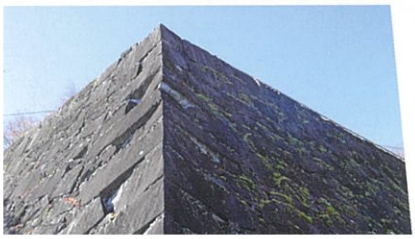


盛岡市遺跡の学び館開館20周年記念企画展

盛岡城の石垣



あいさつ

国指定史跡盛岡城跡は、往時の姿を今に伝える史跡として、また、盛岡城跡公園として、多くの市民に愛され、憩いの場となっています。近年では、県外・国外からの観光客も多く見受けられ、盛岡城跡（盛岡城跡公園）の存在は大きなものになってきているといえます。

史跡を訪れた人々の中には、天守や門などの建築物が存在しないことを残念がる人がいます。しかし、盛岡城跡の魅力のひとつは石垣にあります。盛岡城跡の石垣は、積み方が10数種類ものバラエティに富んでいることや、主要な曲輪に石垣が築かれていることなどが特徴です。また、公園施設と石垣との調和も見事です。石垣は、優美かつ荘厳な姿で存在しつづけ、私たちを出迎えてくれます。

本展では、令和３年から行われている三ノ丸地区北西部北面石垣修復工事の成果を中心に、過去の修復工事、石垣の積み方や特徴など、盛岡城跡の石垣について紹介します。本展を通して、石垣の魅力にふれ、往時に思いをはせてください。石垣は私たちに何を語りかけてくれるでしょうか。

令和６年７月

盛岡市遺跡の学び館

開催要項

◆盛岡市遺跡の学び館開館 20 周年記念企画展
「盛岡城の石垣」

会期　令和６年７月２日(火)～10 月６日(日)
会場　盛岡市遺跡の学び館　企画展示室
主催　盛岡市遺跡の学び館
後援　岩手考古学会、朝日新聞盛岡総局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、時事通信社盛岡支局、共同通信社盛岡支局、河北新報社盛岡総局、産経新聞社盛岡支局、デーリー東北新聞社、岩手日日新聞社、ＮＨＫ盛岡放送局、ＩＢＣ岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、岩手ケーブルテレビジョン、エフエム岩手、ラヂオ・もりおか、情報紙ゆうゆう、アキュート（順不同）
協力　もりおか歴史文化館

◆開館 20 周年記念　特別講演会

演題　盛岡城の石垣普請－南部氏三世代の城づくり－
講師　神山　仁 氏（日本城郭史学会委員・盛岡支部長）
日時　令和６年７月 28 日(日) 13 時 30 分～ 15 時 30 分
会場　盛岡市遺跡の学び館　研修室

例　言

1　本書は、盛岡市遺跡の学び館開館 20 周年記念企画展「盛岡城の石垣」の展示図録である。
2　本書の掲載資料及び掲載順序は、展示会場の内容と異なる場合がある。
3　掲載写真及び掲載図のうち、所有者・提供者名のないものは、当館所蔵・撮影である。
4　本展の企画構成及び本書の作成・編集は、当館職員の協議協力のもと、菊地幸裕・今松佑太・樋下理沙・浜谷　佑が担当し、佐野光代・袴田千佳が補助した。
5　本展開催及び本書の作成には、次の方々より御協力を頂いた。記して謝意を表する。
石川県金沢城調査研究所、鹿島建設株式会社、かみゆ歴史編集部、熊本城総合事務所、株式会社小林石材工業、お城情報 WEB メディア「城びと」、紫波町教育委員会、株式会社タックエンジニアリング、名古屋城総合事務所、彦根市文化財課、姫路市立城郭研究室、兵庫県朝来市、丸亀市教育委員会、盛岡市都市整備部公園みどり課、もりおか歴史文化館
神山　仁、諏訪　匡、香川元太郎、室野秀文

目　次

あいさつ・開催要項・例言・目次
1　盛岡城跡の概要
　盛岡城跡について　1
　石垣からみた盛岡城跡の変遷　3
2　石垣の基礎知識
　石垣各部の名称　4
　石垣の分類　4
3　盛岡城の石垣
　盛岡城石垣の分類　6
　石材と石切丁場　8
　双子石　9
　　石材の運搬　9
4　石工の道具
　石工の道具　10
　　石工道具の素材　10
　矢と矢穴　11
5　これまでの修復工事
　淡路丸（腰曲輪）地区石垣修復工事　12
　本丸地区石垣修復工事（本丸・吹上門坂道）　13
6　三ノ丸地区石垣修復工事
　三ノ丸地区北西部石垣修復工事　14
　　普請奉行銘石　15
　発掘調査から分かったこと　16
　　石垣変位調査　17
7　盛岡城跡の瓦
　盛岡城跡の瓦　18

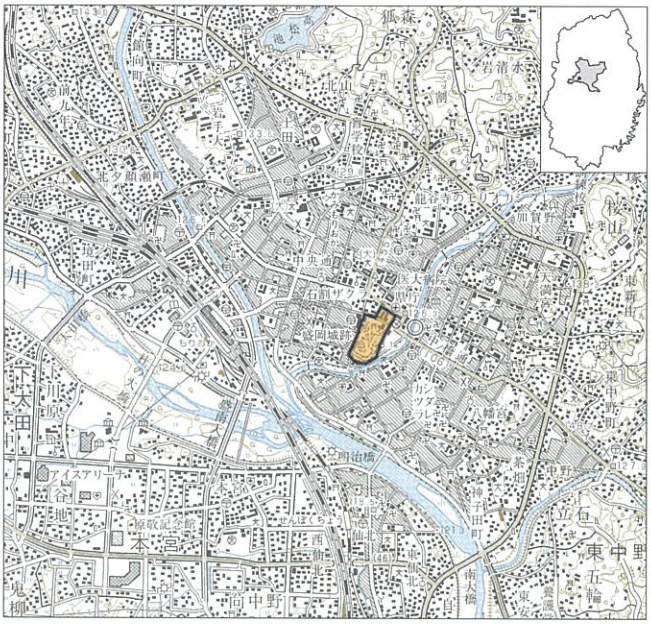
1　盛岡城跡の概要

盛岡城跡について

国指定史跡 盛岡城跡は、盛岡市の中心市街地である内丸に所在する盛岡藩南部氏の居城跡です。盛岡城は、旧北上川と中津川の合流点の花崗岩質小丘陵上に築かれました。現在の北上川は、開運橋・JR盛岡駅付近から南下して中津川・雫石川と合流していますが、これは、寛文13年（1673）から始まった河川改修によるもので、かつては、旭橋付近から大通り方向に大きく蛇行し中津川と合流していました。

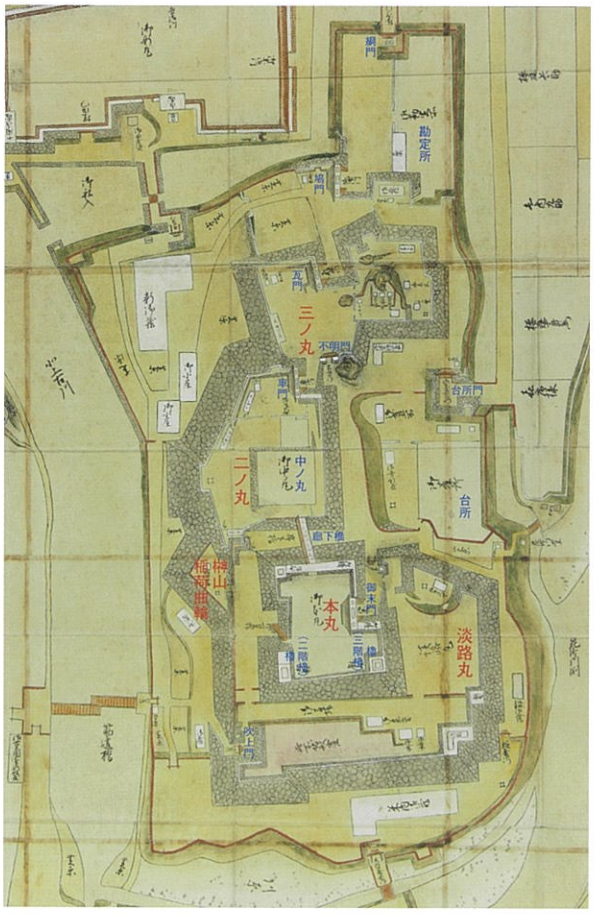
盛岡城の前身は、中世福士氏の不来方城[1]です。不来方城は、現在の盛岡城跡本丸に相当する「淡路館」、三ノ丸に相当する「日戸館」、現在の岩手医科大学付属内丸メディカルセンター付近に所在した「慶善館」で構成されていました。

天正19年（1591）、九戸政実による九戸一揆（九戸合戦）が起きますが、南部信直は豊臣秀吉軍の援軍を得てこれを鎮圧します。この戦いの後、豊臣軍の浅野長吉（長政）は、大坂へ帰る途中に不来方の地を訪れ、この地に新城を築くことを勧めたとされます。「地形は少し狭小であるが、少々築き出せば可能である」とし、北館（慶善館）は切り崩すようにと差し図したといわれています。これを受けて信直は豊臣秀吉に築城を願い出て、許可されます。慶長2年（1597）3月、信直の嫡男 利直を奉行に鋤初めが行われ、築城が開始されます。ただし、築城は文禄年間から段階的に始まっていたとする説もあり、開始時期は必ずしも明確ではありません。築城開始後も、国内情勢や北上川の洪水などにより、何度も中断を余儀なくされ、工事は難航を極めました。おおよそが完成した寛永10年（1633）5月、3代藩主[2]重直が入城し、これ以降、明治期まで盛岡城は南部氏の居城となるのです。



史跡 盛岡城跡の位置

（縮尺 1/60,000）



明和三年書上盛岡城図（一部改変）

もりおか歴史文化館　所蔵

石垣からみた盛岡城跡の変遷

☆不来方城期（盛岡城０期） 14 世紀末頃か～　　中世福士氏の居館の時期

盛岡城本丸・二ノ丸・三ノ丸・淡路丸の前身的な曲輪が形成。石垣は構築されずに、空堀と土塁で区画して曲輪を形成した。初期は丘陵頂部から中腹にかけて形成され、中期には裾部まで拡張された。

☆盛岡城１期　文禄年間か～　　盛岡城築城初期　　不来方城を改修。慶長２年（1597）に鋤初め

本丸・二ノ丸・鳩門（はともん）などの主要な虎口（こぐち）[1]に石垣が築かれる。淡路丸・二ノ丸西側・三ノ丸は、土手のままで木柵が巡る。石垣は、乱積（らんづみ）Ａ主体。

☆盛岡城２期　元和（げんな）３年（1617）～　　盛岡城が完成する時期　　寛永 10 年（1633）、重直が入城

本丸が拡張され、二ノ丸石垣の積みなおしが行われる。三ノ丸・淡路丸に石垣が築かれる。

二ノ丸西側などの城西側には石垣は築かれずに崖のままで、木柵を巡らす。石垣は、乱積Ｂ主体。

☆盛岡城３期　寛文（かんぶん）７年（1667）～　　内曲輪の総石垣が完成する時期

二ノ丸西側・榊山稲荷曲輪・淡路丸西側に石垣が築かれる。石垣は、布積（ぬのづみ）Ａ主体。

三重櫓（やぐら）・二階櫓を含めた本丸が再建される。屋根には赤瓦（あかがわら）が葺（ふ）かれる。北上川が切り替えられ、古川は堀として機能する。

☆盛岡城４期　宝永（ほうえい）元年（1704）～　　石垣の改修の時期

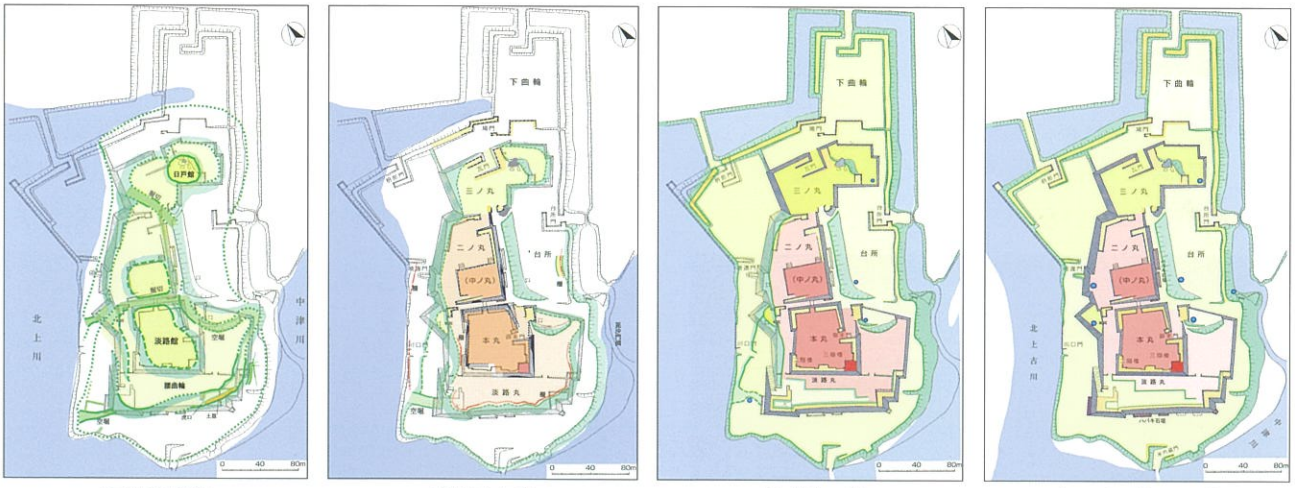
地震により損壊した本丸南西部・二ノ丸北東部・三ノ丸北西部・淡路丸西側などの石垣を積み直す。石垣は、布積Ｂ主体。２期石垣（乱積Ｂ）の石材を転用する例もあり。

☆盛岡城５期　元文（げんぶん）５年（1740）～　　石垣の補修の時期

盛岡藩の財政事情等により、大規模な石垣修復が困難となったため、二ノ丸東側・淡路丸南面などにハバキ石垣[2]を築く。石垣は、布積Ｃ・Ｄ主体。

☆盛岡城６期　明治期　　盛岡城改変期（岩手公園整備の時期）

岩手公園整備に伴い、本丸・三ノ丸・淡路丸などに石段が敷設され、吹上門（ふきあげもん）坂道の石垣は積み直された。本丸櫓台の石垣も改変された。石垣は、谷積（たにづみ）主体。一部においては布積に近い積み方もある。



不来方城期　　盛岡城１期　　盛岡城２期　　盛岡城３期～５期

盛岡城跡の変遷

盛岡市遺跡の学び館企画展図録『不来方之城新築之有可候』を一部改変

1　城（曲輪）の出入口。敵が攻めてきたときの防御性を高めるため、様々な形態がある。

2　石垣の膨らんだ箇所が崩れないように外側に増設した補強石垣

3　盛岡城の石垣

盛岡城石垣の分類

◇**乱積A**　＜本丸東部御末門南東側、三ノ丸不明門西側＞　**盛岡城１期**

野面積主体。石材の長い面を表にして積み、控えは短い。間詰石は花崗岩の割石を使用。角石は粗く分割した割石を使用し、上下間に間詰石を入れて角度を調整している。矢穴幅は、9～11cm。

◇**乱積B**　＜本丸北部・南部、二ノ丸西側の一部、三ノ丸東部・西面など＞　**盛岡城２期**

割石積。大型の矢穴で分割した石材を積み上げる。形状は不定形で控えが長い。角石は直方体に近い形状で、間詰石で角度調整している。矢穴幅は、14～21cm。矢穴幅が最も大きい時期。

◇**乱積C**　＜二ノ丸南面の一部＞　**盛岡城３期**

割石積。乱積Bよりも細かい石材を使用し、矢穴も小さい。矢穴幅は、4～7cm。

乱積A　本丸東面

乱積B　淡路丸南西部

乱積C　二ノ丸南東部

◇**布積A**　＜二ノ丸西側、榊山稲荷曲輪西側＞　**盛岡城３期**

割石積。表面50～60cm、控え100～120cmの規格材を使用。表面はノミで丁寧に調整されている。間詰石は少ない。石垣の勾配は急で、上部は直立するくらいの箇所もある。矢穴幅は、4～7cm。

◇**布積B**　＜本丸南西部、二ノ丸北東部、三ノ丸北西部、淡路丸西側＞　**盛岡城４期**

宝永年間に築かれた石垣。本丸南西部と三ノ丸北西部では、盛岡城２期石垣の石材を転用し、二ノ丸北東部と淡路丸西側では規格材で石垣を構築しており、2パターンが見られる。角石は整形された直方体で、表面はノミで調整されている。築石間の間詰石は比較的多い。矢穴幅は、4～7cm。

◇**布積C**　＜淡路丸南面＞　**盛岡城５期**

ハバキ石垣。粗く割った不定形な割石を使用。角石は直方体にはなっていない。大型の矢穴が認められるため、2期の石材を転用している可能性もある。間詰石は比較的多い。矢穴幅は、5～6cm。

布積A　二ノ丸西側

布積B　二ノ丸北東部

布積C　淡路丸南東側

盛岡城石垣関係略年表

和暦	西暦	事　項	出典等
文治5	1189	源頼朝、岩手郡厨川において、工藤行光を郡地頭とする	
建武1	1334	北畠顕家陸奥国司となり、南部師行糠部に入る	
元中9	1392	南部政光、根城（八戸市）に入る	
応永11	1404	南部義政、福士親行・秀行に不来方を任せる	
永享7	1435	和賀・稗貫の大乱。南部長安ら北奥諸郡の武士が不来方より出陣	
天正10	1582	田子信直、三戸南部を継ぐ	
天正18	1590	豊臣秀吉、南部信直に南部七郡本領安堵の朱印状を交付する	
天正19	1591	九戸一揆。浅野長吉から不来方の地への築城を勧められる	私記
文禄1	1592	信直、肥前名護屋に出陣。秀吉より不来方築城の了承をもらう	私記
文禄3	1594	福士秀純、鵜飼（滝沢市）に移転	内史
慶長2	1597	3月6日、南部利直を総奉行に築城の鋤初	内史
慶長3	1598	3月、秀吉が京都醍醐寺の観桜会を開き、信直が参加	
慶長8	1603	盛岡城普請（築城再開）	内史
元和3	1617	御城御築御普請	内史
元和5	1619	利直、三戸城から盛岡城へ移る	内史
寛永6	1629	盛岡城築城のため、高水寺城を補修し居城する	私記
寛永10	1633	5月8日、南部重直盛岡城へ入城。以降、藩主居城となる	内史
寛永13	1636	本丸に落雷炎上する（寛永10年、11年の説あり）	内史
寛永18	1641	御新丸普請出来	内史
承応2	1653	閏6月、城内八幡神社を築立したところ烏帽子岩出る	
万治2	1659	本丸三重櫓鯱鋳造のため、京都の釜師小泉仁佐衛門を召し抱える	
寛文5	1665	3月26日、御新丸居間前築出の石垣普請	雑書
寛文7	1667	6月6日、三ノ丸冠木門石垣、二ノ丸石垣の普請が許可	奉書
		本丸普請始まる	雑書
		8月15日、普請用石材を志和郡長岡より船で運ぶ	雑書
		10月、高水寺城古材を盛岡城本丸御殿再建のため運ぶ	修補
寛文8	1668	1月21日、石垣普請取付とし、奉行に申し渡す	雑書
寛文9	1669	7月5日、鳩御門の建て直し及び石垣普請	修補
寛文13	1673	5月21日、本丸三重櫓、二階櫓の再建が許可	奉書
延宝3	1675	4月20日、本丸三重櫓、二階櫓再建にあたり、瀬戸瓦を発注	修補
		本丸二階櫓再建、北上川開削工事完成	雑書
延宝4	1676	6月29日、本丸三階櫓棟上げ	雑書
延宝7	1679	7月10日、二ノ丸西方に石垣を築くこと、淡路丸・三ノ丸に二階蔵を建てること、三ノ丸石垣の修復等が許可	修補
延宝8	1680	2月1日、石垣石材を石間、八戸弥六郎屋敷、とつこへから切り出す	修補
		石垣普請淡路丸西南角御門右脇から築き始める	修補
		9月4日、二ノ丸西石垣普請及び二階蔵三箇所建築を願い出る	修補
延宝9	1681	2月9日、本丸石垣築懸	修補
天和2	1682	2月29日、本丸御居間前石垣20間余が崩れる	修補
		8月29日、本丸西之方石垣が崩れたのを築き直す	修補
貞享3	1686	3月、二ノ丸西側の石垣普請	銘石
元禄16	1703	9月29日、本丸、二ノ丸、三ノ丸等の石垣の普請を願い出、許可される	奉書